

■：世界的所有権機関(WIPO)が去る7月初めに発表した技術革新力比では、革新的技術、手法を導入する環境がどれくらい整っているかで、日本は前年から5ランク落ちて25位。1位がスイス、2位がスウェーデン、3位シンガポールと続き、米国19位、中国34位。技術大国ニッポンは今や遠い昔の話。識者曰く「日本は革新的技術を生む土壌は整っているが、それを効率的に生産に結びつけていない」——厳しい教訓と受け止めましょう。

■：景気、不景気そっちのけで金融屋だけが金利を大規模に不正操作して暴利をむさぼる。海の向こうのイギリスが舞台と思ったら日本の大手4行も金融派生商品(為替デリバティブ)で500億円の損失とか。銀行屋にも良心的なバンカーとデリバティブまがいの悪らつな金融屋が「共存」しているようで。職業上のイメージも昔と今ではずいぶん変わってきてます。まあ、いつの時代も金もうけの話にはうさん臭いものが付きまといます。

■：政治の世界で最もうさん臭い

人間、小沢某とか鳩山某が一時に比べてテレビ、紙面での「出番」が減り気味なのは大歓迎。総選挙になれば「消えてなくなれ」「2度と顔を見せるな」という訳けて票が集まらず、政界の浄化が実現するのでは、と今から期待いっぱい。

■：いじめの揚げ句飛びおり自殺した中学2年生。テレビ、マスコミの「集中豪雨」的な報道で見る方はげんなり。しかし死んだ子や遺族には同情の目が。子どもの世界にはいじめは付きもの、大なり小なりいじめたり、いじめられたりが人生。みんななそうや、と「卒業」して大人になつていくもの。これからは教育現場で「けんか講座」でも設けて教師も子どももスカッとした「争いの術」でも勉強したら。

■：野田政権が「働くまでしこ大作戦」と称して女性の活躍推進を目ざすそう。女性の起業、就職への支援を柱に、男性の育児休業も進めていくといひます。企業もこれに協力、女性の登用など活躍状況について約5000社が情報開示実現を目標とす。早く中身が見たいもので。どれだけ現代女性が野郎のいじめの下でがんばっているか。

■：京都の国際日本文化研究センターでの関大・中内先生の講演「大衆圧力鍋社会」にはじまって、「自主性を失った」世論学問「テレビ文化人」「公共知識人」など皮肉を込めた「文化人」の新呼称を紹介してくれています。また元プロ野球選手とか漫才師まがいの芸人がテレビに出てきて国際問題などを論じる風景も。大阪市の大学卒採用試験の応募が伸びないのはテレビ人間の典型みたいな市長が存在するから、という解説も納得させられます。テレビ屋のふざけ過ぎ、子どもの教育にも悪い影響が……。

■：今年度の芥川賞、直木賞(第147回)に2人の女性を受賞。感動的でした。文学の世界、それが男だけの時代がどんなに長く続いたことか。芥川賞の鹿島田真希さんは35歳、直木賞の辻村深月さんは32歳とそろって30代の若さ。これまで女のモノ書き(作家、随筆家)を軽べつして読もうともしなかった世の野郎どもも今回だけは頭を低くして、本屋で彼女らの作品を買い求めたり。「男中心」の世界がどんなに狭くなつてくるように。

月刊公論 MONTHLY
KORON

9月号 第45巻9号

平成24年9月1日発行 毎月15日発売
定価890円(本体848円) 送料84円

発行人
発行所

大 中 吉 一 編集人 田崎義信 土井正彦
株式会社社界通信社
〒160-0008東京都新宿区三栄町25ボナフラービル
TEL.03-5379-5611代、FAX.03-5379-5616

印刷所
取次店

株式会社廣濟堂
トーハン/日本出版販売/大阪屋/栗田出版販売

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。